HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	必需品調査の検討 ： 大学生を対象とした調査結果の分析から
Author(s)	浅田, 真由子
Citation	教育福祉研究, 24, 97-112
Issue Date	2020-02-27
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/76881
Type	departmental bulletin paper
File Information	090-0919-6226-24.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

[Journal of Education and Social Work No.24 2020
教育福祉研究　第 24 号　2020]

必需品調査の検討
―大学生を対象とした調査結果の分析から―

浅　田　真由子

1．本研究の目的と先行研究

本研究の目的は、必需品調査において質問文や選択肢の文言は回答に影響を与えるのか、また回答者は必需品調査をどのように捉え、回答しているのかを調査し、そこから、現在行われている必需品調査をめぐって今後検討されるべきことはなにかを考えることである。まずこの必需品調査について説明する。

貧困を測定する方法の 1 つとして、「相対的剥奪指標」を使って貧困を測る方法がある。その指標をつくるために、必需品調査が行われる。

必需品調査は、予めリストアップされた項目それぞれについて、それらを必要だと思うか、思わないか、を尋ねるものである。その特徴は研究者や専門家ではなく、一般市民が、その判断をするというところにある。

そして必需品調査で回答者の 50％以上が「必要である」と判断したものを社会的必需品として、それを持っているか持っていないかで貧困かどうかを測定する（生活水準そのものを直接的に測る貧困の測定方法）。必需品調査は、このようにして貧困を測定する指標をつくるための調査である。

そもそも相対的剥奪指標とは 1979 年に Townsend が開発した指標である。相対的剥奪について、Townsend（1979）は次のように述べている。

「貧困は相対的剥奪の概念によってのみ、客観的に定義され、一貫して使用されうる。貧困という用語は主観的というよりむしろ客観的に理解される。個人、家族、諸集団は、その所属する集団で慣習的になっている、また少なくとも広く奨励されている種類の食事や活動への参加、必要諸条件や快適さを欠いているとき、貧困であるとされる。貧困者の資源は平均的な個人や家族が自由に使えるものよりもかなり少ないため、彼らはその社会の普通の生活パターンや慣習や活動から事実上排除される。」（Townsend 1979：31）

Townsend はこの相対的剥奪の考え方で次のように貧困の測定を試みた。Townsend は、予め設定した、食事や交友関係など 12 分野からなる 60 の必需項目について個々人や世帯がそれを所有しているか否かを調査した。そしてそれらの項目が欠如している数を合計し、所有していない項目の数が一定以上の人々を相対的剥奪の状態（貧困）にあると定義した。しかし 60 の必需項目は Townsend によって選ばれたものであり、それが社会の必需品であるとは言いきれず、その欠如が貧困や剥奪を意味するとは限らないという批判がなされた。

この批判に対して、Mack と Lansley（1985）は必需項目の選定を社会（一般市民）に問う手法を考案した。これが必需品調査である。Mack と Lansley は、貧困を測定する前に、必需品の項目の候補となる項目のリストを提示し、それらが必要かどうかを一般市民に尋ねた。そして回答者の過半数以上が「必要である」とした項目のみを「社会的必需品」とし、この社会的必需品を、相対的剥奪指標として用いた。

このように改善がなされ、イギリスでは必需品調査とそれをもとにつくった相対的剥奪指標で貧困を測定することは、貧困研究では定番的な調査方法となっている[1)]。

日本では、近年、阿部彩などが相対的剥奪指標に注目し、2002 年、2008 年、2011 年に必需品調査が行われている（相対的剥奪指標の確立には至っていない）。

それぞれの調査では、子どもに関する項目において一般市民の過半数が「必要である」と支持する項目は少なく、子どもの必需品に対する支持率が低いことが指摘されている。このように支持率が低い理由について、日本人が絶対的貧困観を持っていることが考えられている（阿部 2012）。

しかし筆者は支持率が低くなる理由として、必需品調査の調査票の設計上の問題もあるのではないかと考えた。これまで行なわれてきた必需品調査では質問文や選択肢に「最小限」や「必要」などという、強い印象を受ける言葉が使われている。このような言葉が回答に影響を与えている可能性も考えられる。しかし現在行われている必需品調査は、主に必需品に対する支持率の低さや必需品に対する社会的合意はあるか、について議論されており、必需品調査の調査票の設計についての議論は見当たらない。

したがって本論文では、必需品調査において質問文や選択肢の文言は回答に影響を与えるのか、また回答者は必需品調査をどのように捉え、回答しているのかを調査する。そしてそれらの結果から、現在行われている必需品調査をめぐって、調査の設計について今後検討すべきことはなにかを考えることを目的とする。

2．アンケート調査

（1）調査概要

日本で行われている必需品調査は、主に各項目を「必要である」「あったほうがよいが、なくてもよい」「必要ではない」の 3 つの選択肢で選んでもらうように設計されている。

本調査では、必需品調査の回答に「必要」という言葉が影響するのかどうかを確かめるため、「必要である」／「あった方がよいが、なくてもよい」／「必要ではない」という従来の選択肢を使用した調査票と、「必要」という言葉を使わず、「あると望ましい」／「あった方が望ましいが、なくてもよい」／「なくてもよい」という筆者が設定した選択肢を使用した調査票で調査を行った。前者を A 調査票、後者を B 調査票と呼ぶ（図 1 、図 2 を参照）。

A 調査票と B 調査票で使用した 33 個の項目は全く同じである。これらの項目は 2011 年「貧困・格差の実態と貧困対策の効果に関する研究」厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）で行われた必需品調査の項目と平成 28 年度東京都子供の生活実態調査の設問を参考に作成した。また新たに「友達の間で流行の服を 1 着以上持つ」という項目を付け加えた[2)]。よって A 調査票は過去に行われた必需品調査の調査票をほぼ踏襲したものとなっている。

また調査票ではフェイスシートとして学年、性別、専攻、現在の暮らし向き、15 歳の頃の暮らし向き、を尋ねた。

アンケート対象者は北海道内の大学に通う大学生 829 人で、授業内で調査票を配布、実施した。そして A 調査票では 407 人、B 調査票では 422 人から回答を得た。そのうち無回答のもの、フェイスシート部分しか回答されていないものを除き、A 調査票で 399 人、B 調査票で 417 人の回答を分析の対象とした。また A 調査票の回答者の集団と B 調査票の回答者の集団で、学年、性別、専攻、現在の暮らし向き、15 歳の頃の暮らし向き、の分布に大きな違いはなかった[3)]。

したがって本論文では、A 調査票の回答者の集団と B 調査票の回答者の集団を、同じ特徴を持った集団として議論する。

（2）社会的必需品

結果[4)] は、表 1 からわかるように A 調査票の場合でも B 調査票の場合でも支持率が 50％を超えた項目、つまり社会的必需品に含まれる項目は大きくは異なっていなかった。しかし検討すべき点があったのでそれについて述べる。

表 1 で、例えば、(16)子ども部屋は A 調査票の場合では支持率が 48.6％で 50％を超えていないが、B 調査票の場合では 53.7％で 50％を超えて

図1

A 調査票
現在の日本の社会において、子どもたちが普通に生活するためには、最小限どのようなものが必要だと思いますか。次の(1)～(33)の各項目について、以下の3つの選択肢（1. 必要である／2. あったほうがよいが、なくてもよい／3. 必要ではない）の中から、最もあなたの考えに近いものを一つだけ選んでください（○はそれぞれ1つずつ）。

	必要である	あった方がよいが、なくてもよい	必要ではない
(1) 1日3回の食事	1	2	3
(2) 果物（1日1回以上）	1	2	3
(3) 野菜（1日1回以上）	1	2	3
(4) 肉か魚（毎日）	1	2	3
(5) 牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	1	2	3
(6) 家族と一緒に食事をする	1	2	3
(7) 病気などのときに医者にかかれること	1	2	3
(8) 虫歯などのときに歯医者にかかれること	1	2	3
(9) 携帯電話・スマートフォン	1	2	3
(10) (自宅で)インターネットにつながるパソコン	1	2	3
(11) 子ども専用の勉強机	1	2	3
(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	1	2	3
(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	1	2	3
(14) 自転車又は三輪車	1	2	3
(15) 年齢にあった絵本や本	1	2	3
(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	1	2	3
(17) 高校卒業までの教育	1	2	3
(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	1	2	3
(19) 自宅で宿題をすることができる場所	1	2	3
(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	1	2	3
(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	1	2	3
(22) 修学旅行	1	2	3
(23) 部活動	1	2	3
(24) お稽古事	1	2	3
(25) 塾または家庭教師	1	2	3
(26) 新しくお古でない服	1	2	3
(27) 友達の間で流行の服を1着以上持つ	1	2	3
(28) お小遣い	1	2	3
(29) 家の近くで安全に遊べる公園	1	2	3
(30) 誕生日祝い	1	2	3
(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	1	2	3
(32) 1年に1回くらいの家族旅行	1	2	3
(33) 博物館、科学館、美術館に行く	1	2	3

図2

B 調査票
現在の日本の社会において、子どもたちが普通に生活するためには、最小限どのようなものがあると望ましいと思いますか。次の(1)～(33)の各項目について、以下の3つの選択肢（1. あると望ましい・2. あったほうが望ましいが、なくてもよい・3. なくてもよい）の中から、最もあなたの考えに近いものを一つだけ選んでください（○はそれぞれ1つずつ）。

	あると望ましい	あった方が望ましいが、なくてもよい	なくてもよい
(1) 1日3回の食事	1	2	3
(2) 果物（1日1回以上）	1	2	3
(3) 野菜（1日1回以上）	1	2	3
(4) 肉か魚（毎日）	1	2	3
(5) 牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	1	2	3
(6) 家族と一緒に食事をする	1	2	3
(7) 病気などのときに医者にかかれること	1	2	3
(8) 虫歯などのときに歯医者にかかれること	1	2	3
(9) 携帯電話・スマートフォン	1	2	3
(10) (自宅で)インターネットにつながるパソコン	1	2	3
(11) 子ども専用の勉強机	1	2	3
(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	1	2	3
(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	1	2	3
(14) 自転車又は三輪車	1	2	3
(15) 年齢にあった絵本や本	1	2	3
(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	1	2	3
(17) 高校卒業までの教育	1	2	3
(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	1	2	3
(19) 自宅で宿題をすることができる場所	1	2	3
(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	1	2	3
(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	1	2	3
(22) 修学旅行	1	2	3
(23) 部活動	1	2	3
(24) お稽古事	1	2	3
(25) 塾または家庭教師	1	2	3
(26) 新しくお古でない服	1	2	3
(27) 友達の間で流行の服を1着以上持つ	1	2	3
(28) お小遣い	1	2	3
(29) 家の近くで安全に遊べる公園	1	2	3
(30) 誕生日祝い	1	2	3
(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	1	2	3
(32) 1年に1回くらいの家族旅行	1	2	3
(33) 博物館、科学館、美術館に行く	1	2	3

表1　A 調査票の回答と B 調査票の回答

A 調査票	必要である（%）	B 調査票	あると望ましい（%）
（1） 1日3回の食事	84.5	（1） 1日3回の食事	88.5
（3）野菜（1日1回以上）	82.0	（3）野菜（1日1回以上）	82.5
（4）肉か魚（毎日）	74.4	（4）肉か魚（毎日）	78.2
（6）家族と一緒に食事をする	70.9	（6）家族と一緒に食事をする	73.4
（7）必要なときに医者にかかれること	93.2	（7）必要なときに医者にかかれること	92.1
（8）必要なときに歯医者にかかれること	91.2	（8）必要なときに歯医者にかかれること	90.9
(14) 自転車又は三輪車	57.1	(14) 自転車又は三輪車	57.6
(15) 年齢にあった絵本や本	65.9	(15) 年齢にあった絵本や本	64.0
(17) 高校までの教育	88.7	(17) 高校までの教育	88.0
(19) 自宅で宿題をすることができる場所	75.4	(19) 自宅で宿題をすることができる場所	70.7
(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	77.7	(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	79.6
(22) 修学旅行	78.7	(22) 修学旅行	81.3
(23) 部活動	53.9	(23) 部活動	65.2
(29) 家の近くで安全に遊べる公園	73.7	(29) 家の近くで安全に遊べる公園	72.2
(30) 誕生日祝い	67.4	(30) 誕生日祝い	67.9
(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	65.4	(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	68.1
(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	48.6	(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	53.7
(28) お小遣い	50.4	(28) お小遣い	49.2
（2）果物（1日1回以上）	25.1	（2）果物（1日1回以上）	39.8
（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	41.4	（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	49.9
（9）携帯電話・スマートフォン	33.8	（9）携帯電話・スマートフォン	31.9
(10)（自宅で)インターネットにつながるパソコン	31.3	(10)（自宅で)インターネットにつながるパソコン	32.6
(11) 子ども専用の勉強机	38.8	(11) 子ども専用の勉強机	47.7
(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	32.1	(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	37.2
(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	17.5	(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	19.9
(18) 専門学校・短大・大学までの教育	36.6	(18) 専門学校・短大・大学までの教育	46.3
(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	38.1	(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	38.8
(24) お稽古事	20.3	(24) お稽古事	26.9
(25) 塾または家庭教師	10.0	(25) 塾または家庭教師	11.0
(26) 新しくお古でない服	31.3	(26) 新しくお古でない服	30.9
(27) 友達の間で流行の服を1着以上持つ	10.8	(27) 友達の間で流行の服を1着以上持つ	12.5
(32) 1年に1回くらいの家族旅行	35.6	(32) 1年に1回くらいの家族旅行	41.5
(33) 博物館、科学館、美術館に行く	27.8	(33) 博物館、科学館、美術館に行く	27.6

N＝399 人　　N＝417 人

＊社会的必需品とは、回答者の 50%以上が A 調査票では「必要である」、B 調査票では「あると望ましい」と答えた項目を指す。

いる。現在の必需品調査では 50%の支持率を基準に社会的必需品か否かを分類する。よって(16)子ども部屋は A 調査票では社会的必需品に含まれないが、B 調査票では社会的必需品に含まれる。

社会的必需品に含まれる項目は貧困を測定する相対的剥奪指標として用いられるものである。このように A 調査票と B 調査票という調査票のつくりの違いで相対的剥奪指標として用いられたり、用いられなかったりする項目があるということがわかった。表 1 において二重線で囲んでいるのがその項目である。

また学年(1 年生／2 年生)、性別(男性／女性)、専攻(理系／文系／福祉系)ごとに、A 調査票と B 調査票の社会的必需品をみても同様のことが確認できた。その結果が表 2-1～表 4-3 である。

例えば、表 2-1 の 1 年生の回答と表 2-2 の 2 年生の回答をみる。1 年生では、A 調査票の場合でも B 調査票の場合でも、支持率が 50%を超えた項目、つまり社会的必需品に含まれる項目は同じであった。しかし 2 年生では、例えば、(5)乳製品は A 調査票の場合では、支持率が 47.5%で 50%を超えていないが、B 調査票の場合では支持率が 54.4%で 50%を超えている。

このように属性ごとにみても、A 調査票と B 調査票という調査票のつくりの違いで社会的必需品に含まれたり含まれなかったりする項目があるということがわかった。各表において二重線で囲んでいるのがその項目である。

また同じ A 調査票でも 1 年生では、(28)お小遣いは社会的必需品に含まれるが、2 年生では社会的必需品に含まれない、というように同じ調査票でも回答する人の属性の違いで社会的必需品に含まれたり含まれなかったりする項目があることもわかった。

以上から現在の必需品調査は、支持率が 50%未満で社会的必需品に含まれず、相対的剥奪指標として用いられない項目でも、調査票のつくりを変えたり回答者の属性を変えたりして調査すると、社会的必需品に含まれ、相対的剥奪指標として用いられるという調査設計になっているといえる。

本調査ではそのような項目は、支持率が社会的必需品か否かを決定する 50%の基準を少し上回る、少し下回る、という水準で社会的必需品に含まれたり含まれなかったりしていた。現在の必需品調査が 50%の支持率を社会的必需品か否かの判断基準としていることが適当かどうか検討する必要があると考える。

3．インタビュー調査

(1) 調査概要

従来の、「必要である」「あったほうがよいが、なくてもよい」「必要ではない」という選択肢の必需品調査が、どのように捉えられているのか確かめるため、インタビュー調査を行った。北海道内の大学に通う大学生 10 人に、必需品調査を実施し、その回答について 30 分～1 時間程度インタビューを行った。

10 人の属性は、学部 2 年生 1 人、学部 3 年生 3 人、学部 4 年生 6 人。男性 5 人、女性 5 人。理系 6 人、文系 3 人、福祉系 1 人であった。また、現在の暮らし向きは、大変ゆとりがある 3 人、ややゆとりがある 2 人、普通 3 人、やや苦しい 2 人。15 歳の頃の暮らし向きは大変ゆとりがある 3 人、ややゆとりがある 3 人、普通 3 人、大変苦しい 1 人であった。

インタビューの内容は、

①(13)たいていの友達が持っているおもちゃ、(17)高校卒業までの教育、(18)専門学校・短大・大学卒業までの教育、(22)修学旅行、(23)部活動、(27)友達の間で流行の服を一着以上持つ、(28)お小遣い、(30)誕生日祝い、(31)クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉、(32)1 年に 1 回くらいの家族旅行でそれぞれ「必要である」・「あった方がよいが、なくてもよい」・「必要ではない」と答えたのはなぜか

②質問文の「最小限」という言葉がなかったら、回答は変わるか

③質問文に「子どもが希望すれば」という条件がついたら、回答は変わるか

表 2-1　学年ごとにみた社会的必需品―１年生の回答

A 調査票	必要である（%）	B 調査票	あると望ましい（%）
（1）１日３回の食事	85.7	（1）１日３回の食事	87.6
（3）野菜（１日１回以上）	82.1	（3）野菜（１日１回以上）	82.3
（4）肉か魚（毎日）	76.5	（4）肉か魚（毎日）	77.1
（6）家族と一緒に食事をする	68.9	（6）家族と一緒に食事をする	70.3
（7）病気などのときに医者にかかれること	94.8	（7）病気などのときに医者にかかれること	93.6
（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	93.2	（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	92.5
(14) 自転車又は三輪車	56.6	(14) 自転車又は三輪車	53.4
(15) 年齢にあった絵本や本	66.9	(15) 年齢にあった絵本や本	61.7
(17) 高校卒業までの教育	89.6	(17) 高校卒業までの教育	87.2
(19) 自宅で宿題をすることができる場所	75.3	(19) 自宅で宿題をすることができる場所	67.3
(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	79.3	(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	77.4
(22) 修学旅行	79.3	(22) 修学旅行	78.6
(23) 部活動	57.4	(23) 部活動	61.7
(28) お小遣い	52.6	(28) お小遣い	50.0
(29) 家の近くで安全に遊べる公園	74.1	(29) 家の近くで安全に遊べる公園	71.4
(30) 誕生日祝い	67.3	(30) 誕生日祝い	67.7
(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	66.1	(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	66.2
（2）果物（１日１回以上）	25.1	（2）果物（１日１回以上）	36.8
（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	40.2	（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	48.1
（9）携帯電話・スマートフォン	32.3	（9）携帯電話・スマートフォン	30.8
(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	31.1	(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	29.7
(11) 子ども専用の勉強机	36.7	(11) 子ども専用の勉強机	40.2
(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	32.7	(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	33.5
(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	16.3	(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	17.7
(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	47.4	(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	48.1
(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	38.6	(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	48.9
(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	37.1	(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	35.7
(24) お稽古事	19.5	(24) お稽古事	24.8
(25) 塾または家庭教師	10.8	(25) 塾または家庭教師	10.2
(26) 新しくお古でない服	29.1	(26) 新しくお古でない服	28.6
(27) 友達の間で流行の服を１着以上持つ	12.4	(27) 友達の間で流行の服を１着以上持つ	12.4
(32) １年に１回くらいの家族旅行	35.5	(32) １年に１回くらいの家族旅行	41.4
(33) 博物館、科学館、美術館に行く	30.3	(33) 博物館、科学館、美術館に行く	26.3
N＝251 人		N＝266 人	

表 2-2　学年ごとにみた社会的必需品―２年生の回答

A 調査票	必要である（%）	B 調査票	あると望ましい（%）
（1）１日３回の食事	82.8	（1）１日３回の食事	91.2
（3）野菜（１日１回以上）	85.2	（3）野菜（１日１回以上）	83.2
（4）肉か魚（毎日）	73.0	（4）肉か魚（毎日）	83.2
（6）家族と一緒に食事をする	75.4	（6）家族と一緒に食事をする	80.8
（7）病気などのときに医者にかかれること	91.0	（7）病気などのときに医者にかかれること	88.8
（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	90.2	（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	86.4
(14) 自転車又は三輪車	58.2	(14) 自転車又は三輪車	64.8
(15) 年齢にあった絵本や本	65.6	(15) 年齢にあった絵本や本	68.0
(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	50.8	(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	66.4
(17) 高校卒業までの教育	89.3	(17) 高校卒業までの教育	90.4
(19) 自宅で宿題をすることができる場所	78.7	(19) 自宅で宿題をすることができる場所	77.6
(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	73.0	(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	83.2
(22) 修学旅行	78.7	(22) 修学旅行	87.2
(29) 家の近くで安全に遊べる公園	73.0	(29) 家の近くで安全に遊べる公園	75.2
(30) 誕生日祝い	67.2	(30) 誕生日祝い	73.6
(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	67.2	(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	76.0
（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	47.5	（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	54.4
(11) 子ども専用の勉強机	41.8	(11) 子ども専用の勉強机	63.2
(23) 部活動	49.2	(23) 部活動	72.0
（2）果物（１日１回以上）	26.2	（2）果物（１日１回以上）	47.2
（9）携帯電話・スマートフォン	36.1	（9）携帯電話・スマートフォン	35.2
(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	31.1	(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	39.2
(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	34.4	(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	45.6
(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	17.2	(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	26.4
(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	32.8	(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	42.4
(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	41.0	(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	42.4
(24) お稽古事	24.6	(24) お稽古事	29.6
(25) 塾または家庭教師	9.0	(25) 塾または家庭教師	12.8
(26) 新しくお古でない服	34.4	(26) 新しくお古でない服	35.2
(27) 友達の間で流行の服を１着以上持つ	6.6	(27) 友達の間で流行の服を１着以上持つ	14.4
(28) お小遣い	46.7	(28) お小遣い	47.2
(32) １年に１回くらいの家族旅行	36.9	(32) １年に１回くらいの家族旅行	41.6
(33) 博物館、科学館、美術館に行く	24.6	(33) 博物館、科学館、美術館に行く	26.4

N＝122 人　　N＝125 人

表 3-1　性別ごとにみた社会的必需品―男性の回答

A 調査票	必要である（%）	B 調査票	あると望ましい（%）
（1） 1 日 3 回の食事	81.9	（1） 1 日 3 回の食事	88.1
（3）野菜（1 日 1 回以上）	79.7	（3）野菜（1 日 1 回以上）	81.9
（4）肉か魚（毎日）	74.7	（4）肉か魚（毎日）	80.8
（6）家族と一緒に食事をする	65.4	（6）家族と一緒に食事をする	68.9
（7）病気などのときに医者にかかれること	93.4	（7）病気などのときに医者にかかれること	93.8
（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	90.1	（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	91.7
(14) 自転車又は三輪車	62.6	(14) 自転車又は三輪車	58.0
(15) 年齢にあった絵本や本	60.4	(15) 年齢にあった絵本や本	59.1
(17) 高校卒業までの教育	87.9	(17) 高校卒業までの教育	87.6
(19) 自宅で宿題をすることができる場所	72.0	(19) 自宅で宿題をすることができる場所	64.2
(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	77.5	(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	76.2
(22) 修学旅行	73.6	(22) 修学旅行	75.6
(23) 部活動	57.1	(23) 部活動	61.7
(29) 家の近くで安全に遊べる公園	66.5	(29) 家の近くで安全に遊べる公園	66.8
(30) 誕生日祝い	59.9	(30) 誕生日祝い	61.7
(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	57.1	(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	63.2
(28) お小遣い	47.8	(28) お小遣い	52.3
（2）果物（1 日 1 回以上）	28.6	（2）果物（1 日 1 回以上）	36.3
（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	39.6	（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	44.0
（9）携帯電話・スマートフォン	31.9	（9）携帯電話・スマートフォン	29.5
(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	31.9	(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	32.6
(11) 子ども専用の勉強机	35.7	(11) 子ども専用の勉強机	39.9
(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	33.5	(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	40.4
(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	18.7	(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	16.6
(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	44.5	(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	47.2
(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	40.1	(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	49.2
(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	30.8	(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	33.7
(24) お稽古事	15.9	(24) お稽古事	24.4
(25) 塾または家庭教師	9.9	(25) 塾または家庭教師	13.5
(26) 新しくお古でない服	24.7	(26) 新しくお古でない服	28.5
(27) 友達の間で流行の服を 1 着以上持つ	6.6	(27) 友達の間で流行の服を 1 着以上持つ	10.4
(32) 1 年に 1 回くらいの家族旅行	33.0	(32) 1 年に 1 回くらいの家族旅行	37.8
(33) 博物館、科学館、美術館に行く	29.1	(33) 博物館、科学館、美術館に行く	31.6

N＝182 人　　N＝193 人

表 3-2　性別ごとにみた社会的必需品―女性の回答

A 調査票	必要である（%）	B 調査票	あると望ましい（%）
（1） 1日3回の食事	87.0	（1） 1日3回の食事	88.8
（3）野菜（1日1回以上）	83.7	（3）野菜（1日1回以上）	83.0
（4）肉か魚（毎日）	74.4	（4）肉か魚（毎日）	75.9
（6）家族と一緒に食事をする	75.3	（6）家族と一緒に食事をする	77.2
（7）病気などのときに医者にかかれること	93.0	（7）病気などのときに医者にかかれること	90.6
（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	92.1	（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	90.2
(14) 自転車又は三輪車	53.0	(14) 自転車又は三輪車	57.1
(15) 年齢にあった絵本や本	70.7	(15) 年齢にあった絵本や本	68.3
(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	52.1	(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	59.4
(17) 高校卒業までの教育	89.3	(17) 高校卒業までの教育	88.4
(19) 自宅で宿題をすることができる場所	78.6	(19) 自宅で宿題をすることができる場所	76.3
(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	77.7	(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	82.6
(22) 修学旅行	82.8	(22) 修学旅行	86.2
(23) 部活動	50.7	(23) 部活動	68.3
(29) 家の近くで安全に遊べる公園	79.5	(29) 家の近くで安全に遊べる公園	76.8
(30) 誕生日祝い	73.5	(30) 誕生日祝い	73.2
(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	72.1	(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	72.3
（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	42.8	（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	54.9
(11) 子ども専用の勉強机	41.4	(11) 子ども専用の勉強机	54.5
(28) お小遣い	52.6	(28) お小遣い	46.4
（2）果物（1日1回以上）	21.9	（2）果物（1日1回以上）	42.9
（9）携帯電話・スマートフォン	34.9	（9）携帯電話・スマートフォン	33.9
(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	30.2	(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	32.6
(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	31.2	(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	34.4
(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	16.7	(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	22.8
(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	33.5	(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	43.8
(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	43.7	(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	43.3
(24) お稽古事	23.7	(24) お稽古事	29.0
(25) 塾または家庭教師	9.8	(25) 塾または家庭教師	8.9
(26) 新しくお古でない服	36.7	(26) 新しくお古でない服	33.0
(27) 友達の間で流行の服を1着以上持つ	14.4	(27) 友達の間で流行の服を1着以上持つ	14.3
(32) 1年に1回くらいの家族旅行	37.7	(32) 1年に1回くらいの家族旅行	44.6
(33) 博物館、科学館、美術館に行く	26.5	(33) 博物館、科学館、美術館に行く	24.1

N＝215 人　　N＝224 人

表 4-1　専攻ごとにみた社会的必需品―理系の回答

A 調査票	必要である（%）	B 調査票	あると望ましい（%）
（1） 1 日 3 回の食事	81.9	（1） 1 日 3 回の食事	90.8
（3）野菜（1 日 1 回以上）	81.9	（3）野菜（1 日 1 回以上）	85.4
（4）肉か魚（毎日）	73.4	（4）肉か魚（毎日）	82.7
（6）家族と一緒に食事をする	63.8	（6）家族と一緒に食事をする	73.5
（7）病気などのときに医者にかかれること	94.4	（7）病気などのときに医者にかかれること	94.6
（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	92.1	（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	93.0
(14) 自転車又は三輪車	57.6	(14) 自転車又は三輪車	60.0
(15) 年齢にあった絵本や本	59.9	(15) 年齢にあった絵本や本	64.3
(17) 高校卒業までの教育	87.0	(17) 高校卒業までの教育	87.6
(19) 自宅で宿題をすることができる場所	72.9	(19) 自宅で宿題をすることができる場所	65.4
(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	76.3	(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	78.9
(22) 修学旅行	75.1	(22) 修学旅行	78.4
(23) 部活動	52.5	(23) 部活動	62.2
(29) 家の近くで安全に遊べる公園	67.2	(29) 家の近くで安全に遊べる公園	71.4
(30) 誕生日祝い	59.3	(30) 誕生日祝い	63.8
(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	58.8	(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	63.2
(28) お小遣い	48.0	(28) お小遣い	50.3
（2）果物（1 日 1 回以上）	24.9	（2）果物（1 日 1 回以上）	38.9
（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	40.7	（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	46.5
（9）携帯電話・スマートフォン	29.9	（9）携帯電話・スマートフォン	28.6
(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	32.8	(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	31.4
(11) 子ども専用の勉強机	32.8	(11) 子ども専用の勉強机	46.5
(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	31.6	(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	40.0
(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	14.7	(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	17.3
(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	41.2	(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	45.9
(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	40.7	(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	49.2
(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	31.6	(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	35.1
(24) お稽古事	14.1	(24) お稽古事	24.3
(25) 塾または家庭教師	9.6	(25) 塾または家庭教師	10.8
(26) 新しくお古でない服	26.0	(26) 新しくお古でない服	28.1
(27) 友達の間で流行の服を 1 着以上持つ	5.6	(27) 友達の間で流行の服を 1 着以上持つ	8.1
(32) 1 年に 1 回くらいの家族旅行	31.1	(32) 1 年に 1 回くらいの家族旅行	41.1
(33) 博物館、科学館、美術館に行く	33.3	(33) 博物館、科学館、美術館に行く	30.8

N＝177 人　　N＝185 人

表 4-2　専攻ごとにみた社会的必需品―文系の回答

A 調査票	必要である（%）	B 調査票	あると望ましい（%）
（1） 1 日 3 回の食事	91.5	（1） 1 日 3 回の食事	87.4
（3）野菜（1 日 1 回以上）	82.9	（3）野菜（1 日 1 回以上）	82.8
（4）肉か魚（毎日）	78.0	（4）肉か魚（毎日）	75.9
（6）家族と一緒に食事をする	72.0	（6）家族と一緒に食事をする	59.8
（7）病気などのときに医者にかかれること	96.3	（7）病気などのときに医者にかかれること	93.1
（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	95.1	（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	93.1
(14) 自転車又は三輪車	51.2	(14) 自転車又は三輪車	52.9
(15) 年齢にあった絵本や本	73.2	(15) 年齢にあった絵本や本	64.4
(17) 高校卒業までの教育	90.2	(17) 高校卒業までの教育	87.4
(19) 自宅で宿題をすることができる場所	75.6	(19) 自宅で宿題をすることができる場所	72.4
(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	84.1	(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	79.3
(22) 修学旅行	76.8	(22) 修学旅行	75.9
(23) 部活動	56.1	(23) 部活動	55.2
(29) 家の近くで安全に遊べる公園	73.2	(29) 家の近くで安全に遊べる公園	63.2
(30) 誕生日祝い	69.5	(30) 誕生日祝い	60.9
(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	69.5	(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	60.9
(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	51.2	(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	43.7
(28) お小遣い	51.2	(28) お小遣い	37.9
（2）果物（1 日 1 回以上）	26.8	（2）果物（1 日 1 回以上）	41.4
（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	40.2	（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	49.4
（9）携帯電話・スマートフォン	23.2	（9）携帯電話・スマートフォン	26.4
(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	26.8	(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	28.7
(11) 子ども専用の勉強机	42.7	(11) 子ども専用の勉強机	40.2
(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	31.7	(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	32.2
(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	15.9	(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	19.5
(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	28.0	(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	46.0
(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	39.0	(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	33.3
(24) お稽古事	17.1	(24) お稽古事	24.1
(25) 塾または家庭教師	3.7	(25) 塾または家庭教師	10.3
(26) 新しくお古でない服	29.3	(26) 新しくお古でない服	26.4
(27) 友達の間で流行の服を 1 着以上持つ	4.9	(27) 友達の間で流行の服を 1 着以上持つ	13.8
(32) 1 年に 1 回くらいの家族旅行	37.8	(32) 1 年に 1 回くらいの家族旅行	32.2
(33) 博物館、科学館、美術館に行く	25.6	(33) 博物館、科学館、美術館に行く	24.1

N＝82 人　　N＝87 人

表 4-3　専攻ごとにみた社会的必需品―福祉系の回答

A 調査票	必要である（%）	B 調査票	あると望ましい（%）
（1） 1 日 3 回の食事	82.9	（1） 1 日 3 回の食事	87.1
（3）野菜（1 日 1 回以上）	82.9	（3）野菜（1 日 1 回以上）	79.1
（4）肉か魚（毎日）	74.4	（4）肉か魚（毎日）	74.1
（6）家族と一緒に食事をする	78.3	（6）家族と一緒に食事をする	82.7
（7）病気などのときに医者にかかれること	89.1	（7）病気などのときに医者にかかれること	89.9
（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	87.6	（8）虫歯などのときに歯医者にかかれること	89.2
(14) 自転車又は三輪車	59.7	(14) 自転車又は三輪車	58.3
(15) 年齢にあった絵本や本	69.8	(15) 年齢にあった絵本や本	64.0
(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	56.6	(16) 子ども部屋（兄弟と使っている場合も含む）	69.8
(17) 高校卒業までの教育	89.1	(17) 高校卒業までの教育	89.9
(19) 自宅で宿題をすることができる場所	77.5	(19) 自宅で宿題をすることができる場所	76.3
(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	74.4	(21) 学校の課外授業への参加費・交通費	80.6
(22) 修学旅行	84.5	(22) 修学旅行	88.5
(23) 部活動	55.0	(23) 部活動	75.5
(28) お小遣い	52.7	(28) お小遣い	55.4
(29) 家の近くで安全に遊べる公園	82.9	(29) 家の近くで安全に遊べる公園	78.4
(30) 誕生日祝い	76.0	(30) 誕生日祝い	78.4
(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	71.3	(31) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	79.1
（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	45.0	（5）牛乳・ヨーグルトなどの乳製品（毎日）	54.7
(11) 子ども専用の勉強机	44.2	(11) 子ども専用の勉強机	54.0
（2）果物（1 日 1 回以上）	26.4	（2）果物（1 日 1 回以上）	39.6
（9）携帯電話・スマートフォン	42.6	（9）携帯電話・スマートフォン	40.3
(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	31.8	(10)（自宅で）インターネットにつながるパソコン	36.7
(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	34.1	(12) スポーツ用品（ボール、ラケットなど）	36.7
(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	20.9	(13) たいていの友達が持っているおもちゃ	24.5
(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	36.4	(18) 専門学校・短大・大学卒業までの教育	43.9
(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	43.4	(20) 子どもの学校行事などへの親の参加	46.8
(24) お稽古事	31.0	(24) お稽古事	30.9
(25) 塾または家庭教師	14.0	(25) 塾または家庭教師	12.2
(26) 新しくお古でない服	39.5	(26) 新しくお古でない服	38.8
(27) 友達の間で流行の服を 1 着以上持つ	20.9	(27) 友達の間で流行の服を 1 着以上持つ	17.3
(32) 1 年に 1 回くらいの家族旅行	41.1	(32) 1 年に 1 回くらいの家族旅行	47.5
(33) 博物館、科学館、美術館に行く	21.7	(33) 博物館、科学館、美術館に行く	25.2
N＝129 人		N＝139 人	

④このアンケート、インタビューを受けて思うことはあるか、である。

（2）「必要」という言葉が与える印象

必需品調査において、「必要である」という言葉は「強制する」という意味に受け取られることがあるとわかった。その結果、「専門学校・短大・大学卒業までの教育」や「部活動」など、やるかやらないかは、子どもたち本人の意思を尊重すべきだと考えられた項目は、次のような考えで、「あった方がよいが、なくてもよい」という選択肢が選ばれた。

（専門学校・短大・大学卒業までの教育）

高校までやって何かほかにやりたいことがあるから入る学校だと思うんで、なんか子どもがそうしたいって思ったときに入れる環境はあった方がいいと思うんですけど、ただ別に行きたくないし、もう働きたいってなったんだったらそうすればいいし、っていう風に思います。

（部活動）

部活動に関しては、結構学校によっては部活動強制だったりってところもあると思うんですけど、割と時間をかなり要するものなので、ここは例えば中学校とかならまあ結構塾に行くとかいう人もいるし、あえて強制するものではないとは思います。

しかし「必要である」の選択肢を選んでいなくても「子どもが望んでいる」という条件が付けば、「必要」だと思うのである。

（「子どもが望んだら」という条件があれば、回答変わりますか？）

変わります、変わります。お稽古とか塾または家庭教師とか、僕はもう全く必要ないと思うけど、もし子どもがしたいんだって思ったらしたほうがいい。1（必要である）になる。

たぶんめちゃ変わると思います。基本的には。1（必要である）のほうにずれるんじゃないかな。

以上から「必要である」を選択すると、その項目を「持つこと」「経験すること」を子どもたちに強制することになり、子どもたちからそれ以外の選択肢を奪ってしまう、という感覚があるため、「必要である」が選択できないと考えられる。しかし「子どもが望んだら」という条件がつけば「必要である」と思うのである。つまり回答者は子ども本人が「望んでいる」ということがわかっていないと「必要である」を選べない。日本語の「必要」にはそのような条件がつくことが考えられる。

しかし日本の必需品調査をつくるときに参考にされた、イギリスで 1999 年に行われた Poverty and Social Exclusion Survey では選択肢に necessary/not necessary という表現が使われている。necessary は Oxford Learner's Dictionaries では、「necessary (for somebody/something) (to do something) that is needed for a purpose or a reason」と説明されている。よってイギリスの必需品調査の選択肢は、ある目的や理由のために必要とされるもの（necessary）／目的や理由があっても必要ではないもの（not necessary）であると考えることができる。つまり necessary は日本語の「必要である」よりも広い範囲（子どもが望んでいることがわかっていたら必要なもの、わかっていなくても必要なもの）を指しており、not necessary は日本語の「必要ではない」よりも強い意味（何があっても必要ではないもの）を持っていると考えられる。よって必需品調査では「必要である」という言葉は「necessary」と同義には受け取られていない。

したがって、日本の必需品調査は necessary を「必要である」、not necessary を「必要ではない」と置き換えて設計されているが、そのように置き換えることについては検討すべきだと考える。

（3）「最小限」という言葉

必需品調査の質問文は「現在の日本の社会において、子どもたちが普通に生活するためには、最小限どのようなものが必要だと思いますか。」である。

この「子どもたちが普通に生活するために最小

限」という言葉の捉え方は人によって様々であり、それが回答に影響していた。

例えば、「『最小限』という言葉がなかったら、回答が変わった。誕生日祝い、クリスマスプレゼントやお正月のお年玉、家族旅行は割と１（必要である）になったかもしれない」というように「最小限」には楽しみが含まれないと考える人がいた。また「子どもたちが普通に生活するために最小限必要なもの」という文言ではなく、「毎日楽しく生活するために必要なもの」という文言であれば家族旅行などの「楽しみ」が必要と思うかもしれないという回答もあった。

また、次のように「最小限」という言葉でぎりぎりの生活を思い浮かべる人もいた。

> 最小限って言われると、イメージ変わってくるかな。あ、なんか、ギリギリのところなんだな、みたいな。そんなギリギリのところで必要か必要じゃないかって言われたら、まあ必要ではないかなあ、みたいな

一方で、「最小限」という言葉を、子どもたちが生活の中で周りとあまり差異が出ないこと、不自由しないことと捉えている人もいた。

> 最小限は子どもたちが普通に公立の小学校中学高校って卒業して働くなり大学行ってっていうところに行くまでその暮らし向きとして特に不自由を感じることもないっていうところですね

以上から「最小限」という言葉は様々な解釈・捉え方がされていることがわかった。

「最小限」という言葉からぎりぎりの生活を想像し、「生きていくために必要かどうか」に近い視点で捉えていたり、また「普通」「最小限」の生活と「楽しい」生活が別のものとして捉えられ、「普通」「最小限」の生活には「楽しみ」の部分は必要ないと考えられていたりした。一方で、「最小限」という言葉は、子どもたちが生活の中で周りとあまり差異が出ないこと、不自由しないこと、という捉え方もあった。

このように「最小限」という言葉からは人によって異なる生活が想像され、そのイメージをもとに必需品調査に回答がなされていた。

必需品調査では回答者の過半数以上が「必要である」とした項目を社会的必需品とする。しかしこのように回答者が異なる生活をイメージして回答している可能性がある状況で、回答者の過半数以上が「必要である」とした項目のみを社会的必需品とすること、そしてその結果から議論を進めていくのは危険ではないだろうか。

よって必需品調査において「最小限」という言葉を使用することについては検討すべきだと考える。

4．おわりに

本研究では、必需品調査において質問文や選択肢の文言は回答に影響を与えるのか、また回答者は必需品調査をどのように捉え、回答しているのかを調査し、そこから、現在行われている必需品調査をめぐって今後検討されるべきことはなにかを考えた。

結果は、必需品調査において「必要」という言葉を使ったＡ調査票でも、使っていないＢ調査票でも、支持率が50％を超えた項目、つまり社会的必需品に含まれる項目に大きな違いはなかった。しかし調査票や属性の違いで社会的必需品に含まれたり含まれなかったりする項目があることがわかった。また日本の必需品調査は、イギリスの必需品調査で使用されている「necessary」を「必要である」という言葉に置き換えて設計されている。しかしインタビュー調査から「必要である」が「necessary」と同義には受け取られていないことがわかった。また必需品調査の質問文で使用されている「最小限」という言葉が人によって異なる捉え方がされており、それが回答に影響していることがわかった。

これらのことから現在の必需品調査においては、社会的必需品か否かを決める支持率の基準の検討、「必要」や「最小限」という言葉を使うこと

の検討が必要だと考えられる。

現在、必需品調査自体の設計について議論がなされていない中で、調査の設計について検討すべき点を指摘したことを本研究の成果としたい。

注

1）1983 年の Breadline Britain 調査、1990 年の Breadline Britain 調査、1999 年の貧困・社会的排除（Poverty and Social Exclusion）調査などに用いられている。

2）テス・リッジは、「正しい」服装は周りの友だちとうまくやるために重要だということを子ども自身が認識していたと指摘している。（テス・リッジ 2010：134–141）

このように子どもたちの社会には、皆で何か同じものを持つことで仲間であることを確認するような「友情」を象徴するようなアイテム（ここでは服）が存在することがある。このような性質を持つ服の必要性を必需品調査で把握できるのか確かめるためにこの項目を設定した。

3）この調査は、本誌掲載の由水瞳「大学生の貧困観についての調査報告」の調査と同時に行ったものであり、2 つの調査の回答者は同一である。回答者の属性については由水論文の表 1 〜表 5 を参照されたい。

4）A 調査票でも B 調査票でも社会的必需品に含まれた項目は 17 項目であった。この結果は過去の必需品調査の結果よりも多い。2003 年に行われた必需品調査の結果を分析している阿部（2004）では、30 歳以下の若者と 70 歳以上の高齢者で社会的必需品に含まれた項目に違いがあることを指摘している。よって本研究では調査対象者を大学生に絞ったためこのような結果になったと考えられる。

参考文献・引用文献

阿部彩（2004）「補論「最低の生活水準」に関する社会的評価」『季刊・社会保障研究』第 39 巻第 4 号 403–414

阿部彩（2012）「「豊かさ」と「貧しさ」：相対的貧困と子ども」『発達心理学研究』第 23 巻第 4 号 362–374

貧困統計ホームページ https://www.hinkonstat.net/（最終閲覧日 2019 年 1 月 11 日）

Mack. J and Lansley. S (1985) Poor Britain, Allen and Unwin

テス・リッジ著　中村好孝・松田洋介訳　渡辺雅男監訳（2010 桜井書店）『子どもの貧困と社会的排除』

Townsend. P (1979) Poverty in the United Kingdom, Allen Lane and Penguin Books

（北海道大学教育学部卒業）